

駒場防災についての長老談話（２）

平成17年7月18日

1. Cさんのご意見

防災部消防団のひとはみな1部Bに所属している。1部Aの住民のほうが多いのだがお屋敷が多く、ここに呼びかけるのが難しい。

駒場公園の中に大きな防火水槽があるので、B班だけならそこに集合したらよい。A班は駒場小学校か。A班に防災部員、消防団員がいないのが問題。

参加者を集めるのは、回覧版ではなく個別訪問でないと無理だろう。

駒場は広いので各地域の避難場所を調べ、その関係各所にきちんと連絡しなければならない。東大、一中、駒場野公園、駒場公園。駒場小学校が本部。

防火水槽の水を使った時は消火栓をあけ、ホースで補充しなければならない。その器具が少なく、消防の許可がいる。管理責任を明らかにし、防災部員も使えるようにすべき。

駒場の1丁目2丁目3丁目4丁目で人口密度が違いすぎる。ポンプの配置を見直す時期かもしれない。いや、ポンプを増やしてもらえるように、日頃の活動実績を高めなくてはならない。

防火水槽の満水状態をするのは、その地区の防災部員の責任だと思う。西駒場ではそうしている。保育園の防火水槽の管理をしっかりすべきだと思う。防災部全体で管理記録が必要でないか。

住民が自分の家の近くにある防火水槽を知っておくべき。

行政からくる文書が3地区にばらばらにくるので、防災部としてのまとまりをかいている。今まで商店会を中心とした活動だったが、商店会が衰退しているので、組織の再編も必要かもしれない。

Dさんのご意見

今まで防災部として住民に対してなにもしてこなかったのだから、足元から活動すべき。ご近所の小グループでまず訓練を始めたらいい

駒場野防災チームではポンプ車の点検は1, 2ヶ月おきに実施している。人数がたった4人だから寂しいかぎりだ。

保育園の防火水槽の管理は区の仕事だと思う。

以上